

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 16 日現在

機関番号：15201

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2015

課題番号：23780229

研究課題名(和文) リレーションシップバンキングを基軸とした農業金融の新技术と金融機関連携の研究

研究課題名(英文) The study of new lending technique of agricultural finance and financial cooperation with the relationship banking

研究代表者

森 佳子(MORI, YOSHIKO)

島根大学・生物資源科学部・准教授

研究者番号：40346375

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では独自の農業経営・金融機関向けアンケートを実施し、分析のためのデータを得た。同データについては本格的な分析のための準備として、記述統計を整理して簡単な分析を行うサマリー論文を執筆した。またアンケートと並行して行ってきた金融機関や農業経営に対する調査についてもその概要をまとめた。これらの論文ではこれまでの研究では明らかでなかった民間金融機関による農業融資に関して、さまざまな知見が得られている。得られたデータを用いた独自の研究としては、金融機関の内部組織と情報生産との関係を調べる研究を行った。またアンケート調査のデータを用いない研究として、地域金融・協同組織金融機関に関する研究を行った。

研究成果の概要(英文)： I summarized the mechanisms of the financial behavior of an agricultural business in the managerial development process and the actual situation of the financial support system.

I first implemented a unique survey of agricultural business and private financial institutions and obtained data. To prepare for full-fledged analysis, I summarized the descriptive statistics of the data and wrote a summary paper. I also wrote a summary paper on the results of interviews to private financial institutions and agricultural business. These summary papers produced various new findings on their agricultural lending. Using the data from the survey, I summarized research on the relationship between the internal organization of financial institutions and their information production. I also conducted some related researches not using the data from the survey, including those focusing on regional finance and cooperative financial institution.

研究分野：農学

キーワード：経営発展 リレーションシップバンキング 貸出技術 農業金融 民間金融機関

1. 研究開始当初の背景

周知のとおり近年、わが国の農業金融を取り巻く環境は極めて厳しい状況にある。フローで見た農業融資のピークは1980年度前後であり、それ以降、融資額も融資件数も激減してきている。このような背景としてしばしば指摘されるのは、わが国の農業の後退による農業投資の不振である。確かに、わが国農業の主要な担い手である農家戸数の激減や高齢化、耕作放棄地の増加など農業構造の厳しい状況を踏まえると、農業投資の不振は農業融資額や融資件数の激減の大きな要因であることは理解できる。

しかし近年、農外からの参入も含め農業経営主体が非常に多様化してきていること、さらに今までに類をみないほどの経営発展を遂げてきている企業の経営も出現してきていること、農業経営の領域が生産だけでなく川中・川下にまで拡大してきていること等を踏まえると、資金需要者である農業経営主体は非常に大きく変化してきている。これまで本研究代表者はこのような経営主体の資金需要について考察をしたが、その際、この新しいタイプの経営主体に共通した資金需要の特質は、投資資金に加えて巨額な運転資金の需要が大きいことを指摘した。他方、農業融資を行う金融機関も公庫や農協以外にも多様になってきており、実際に農協以外の民間金融機関の農業融資実績が伸びていること、これらの民間金融機関は融資以外の農業者への支援も積極的に行っていること等、金融機関を取り巻く経営環境も一層大きく変化してきている。農協以外の民間金融機関による農業融資の多くは従来、無担保無保証の小規模融資であったが、近年はABLやスコアリング融資など新たな融資手法を適用するケースも出てきている。このように、資金需要者である農業経営主体が量的にも質的にも変化してきており、同時に資金供給者である金融機関も変化してきている。従来わが国の農業金融に関する研究は、1960年ころに形成された農業金融システムを前提としているため、研究対象となる金融機関は公庫と農協にほぼ限定され、分析対象の資金の大半も制度資金であった。こうした前提の下で、農業金融の既存研究の多くは、農業制度資金の長期的な動向整理、公庫や農協の金融機関の構造と機能に関する分析、制度資金の効果など、マクロ的視点にたった分析や資金の供給側にたった分析が多く、資金需要者と資金供給者との取引関係、資金供給が資金需要者の行動に与える影響といったミクロ的視点にたった分析まで言及されることは少なかった。その理由として従来は、金融機関と資金需要者との取引関係といったミクロ的視点で考察する理論枠組みが希薄であったという理論上の問題があり、また、我が国の非競争的な農業金融システムにおいて、農業経営の資金需要自体も多様性を欠いていたことが考えられる。

しかし90年代後半以降、中小企業金融の分野で金融機関と資金需要者との取引関係や金融機関の貸し付け行動が企業行動に与える影響など、ミクロ的視点で分析する理論枠組みが急速に発展してきている。これらの枠組みを使うことによって、既述したような新しい資金需要者・供給者の取引関係や、組織構造、行動論理を分析・解明することが出来る。これまで、本研究代表者も、農業金融における新しい動きについていくつか分析を行っている。ただし、中小企業金融の分野で行われてきている研究は、分析対象となる金融機関が基本的に民間の金融機関であること、対象となる中小企業の規模が比較的大きい規模層であることなど、我が国の農業金融システムとは異なる部分も多い。従って、我が国の農業金融の現状とあり方を分析するには、独自の枠組みが必要となる。

2. 研究の目的

前述の問題意識を踏まえ、本研究は、多様な農業経営主体の組織的、機能的特質、農業の産業的特質を十分考慮し、理論・実証分析を通じて、リレーションシップバンキングを基軸とした農業金融の新しい手法とそれを実現するための金融機関（公庫、農協、民間金融機関）の連携を構築することを目的としたものである。

本研究では、具体的に以下の4点に取り組む。1)多様な農業経営主体の資金需要に対応できる金融手法を、中小企業金融の分野で用いられている新しい金融技術（ABL、スコアリング融資など）の農業金融への適用可能性を検討した上で、提示する。2)農協以外の民間金融機関が積極的に行っている、農業融資以外の農業者への支援の実態と課題を整理し、民間金融機関による農業者への支援のあり方を提示する。3)多様な金融機関（公庫、農協、民間金融機関）の構造的・機能的特質をふまえ、新しい金融技術に対応した、望ましい連携のあり方を検討する。4)財務データベースを構築するとともに、アンケート調査を実施し、農業金融のミクロ実証基盤を構築する。

3. 研究の方法

本研究は研究目的に述べたとおり、多様な農業経営主体の組織的、機能的特質、農業の産業的特質を十分考慮し、理論・実証分析を通じて、リレーションシップバンキングを基軸とした農業金融の新しい手法とそれを実現するための金融機関（公庫、農協、民間金融機関）の連携を構築するものである。この研究目的を達成するために、1)多様な農業経営主体の資金需要に対応できる金融手法の提示、2)民間金融機関による農業者への支援のあり方、3)多様な金融機関による連携システムの構築に取り組んだ。

4. 研究成果

研究成果は、以下の通りである。

- 1) 農業経営学、農業金融論、中小企業金融論に依拠しながら、農業金融における新たな手法や体制整備の課題を明らかにした上で、リレーションシップバンキングを基軸とした、多様な農業経営主体に対する農業金融手法を確立するための理論枠組みを提示した。
- 2) 農協以外の民間金融機関が積極的に行っている、農業融資以外の農業者への支援の実態と課題をビジネスマッチングに注目して整理し、民間金融機関による農業者への支援のあり方を提示した。
- 3) 全ての信用組合・信用金庫・農協に対して、農業融資に関する実態に関するアンケート調査を実施、協同組織金融機関における農業融資の実態と課題を明らかにした。
- 4) 全国の企業的農業経営に対し、農業金融に関するアンケート調査を実施し、民間金融機関との取引における実態と課題を明らかにした。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計9件)

- 1 森佳子：“肉用牛繁殖部門の経営継承”，農業と経済，82(3)，100 - 107 (2016)(査読無)
- 2 森佳子：“TPPが島根県の六次産業化に与える影響”，NOSEIKEN・島根農政研究会，(369)25 - 29 (2016年3月)(査読無)
- 3 岸郁也・古塚秀夫・仙田徹志・浅見淳之・森佳子：“農地改革と税制改革が農家経済に与えた影響について”，農林業問題研究，51(3)，209 - 214 (2015)(査読有)
- 4 森佳子：“信用組合における農業融資の現状と課題 信用組合における農業融資の実態と意向に関するアンケート調査結果から”，一般社団法人全国信用組合中央協会・国際協同組合記念論文集，()63 - 105 (2015)(査読無)
- 5 森佳子：“中山間地域における民間金融機関の役割”，島根大学生物資源科学部ミッション研究課題成果報告書，192 - 193(2014)(査読無)
- 6 森佳子：“農協の食肉販売力強化に向けた課題と方向”，農業と経済，80(7)，74 - 79，(2014)(査読無)
- 7 森佳子：“安定融資への2つの課題”，月刊金融ジャーナル，2014年1月号，72 - 73 (2014)(査読無)
- 8 森佳子：“地域金融機関における農業ビジネスマッチング”，農業と経済，78(10)，61 - 71，(2012)(査読無)
- 9 森佳子：“農業金融研究の動向と展望 農業経営向け融資を対象として”，農業経済研究，84(1)，43 - 53，(2011)(査読有)

〔学会発表〕(計2件)

- 1 森佳子：“企業的農業経営をめぐる農業融資の動向と展望 - アンケート調査に基づく検討 - ” 大会名称：平成27年度日本農業経営学会研究大会、2015年9月12日、開催地：北海道大学
- 2 森佳子：“企業的農業経営の資金需要の特質と貸出技術論の適用” 大会名称：平成24年度日本農業経営学会研究大会、2012年9月22日、開催地：宮崎大学

1〔図書〕(計4件)

- 井上憲一・森佳子：“資源循環型の大規模畜産経営による産地再編 組織間連携による経営発展と地域貢献の両立”，八木宏典・佐藤了・納口りり子編『産地再編が示唆するもの』，農林統計協会，274 - 287(2016)
- 2 森佳子：“農業金融における貸出手法と企業的経営の会計情報の整備・支援”，谷口憲治編『地域資源活用による農業振興』，農林統計出版，251 - 271 (2014)
 - 3 森佳子：“地域金融機関による農業ビジネスマッチング事業の意義と課題”，谷口憲治編『中山間地域農村発展論』，農林統計出版，161 - 172 (2012)
 - 4 森佳子：“農業経営の多様化する資金調達と農業経営発展” 稲本志良編集代表・小野博則・四方康行・横溝功・浅見淳之編集『農業経営発展の会計学』，昭和堂，46 - 59(2012)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

森佳子 (MORI YOSHIKO)

島根大学・生物資源科学部・准教授

研究者番号：40346375

(2)研究分担者 ()

研究者番号：

(3)連携研究者 ()

研究者番号：